

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第7回津有区地域協議会

2 協議事項（公開・非公開の別）

- (1) 地域アンケートについて（公開）
- (2) 町内会長との意見交換会について（公開）
- (3) 高齢者の交通手段について（公開）

3 開催日時

令和元年 11月 14日（木）午後 6時 30分から午後 8時 5分まで

4 開催場所

ファームセンター 農事研修室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者 氏名（敬称略）

- ・ 委 員：江平幸雄、太田政雄、塩坪貞雄（副会長）、清水昇一、服部香代子
古川昭作、保坂和彦、丸山常夫、宮越隆一、山菅節子
吉崎則夫（会長）、渡部稔（欠席 2名）
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

【吉崎会長】

- ・ 挨拶

【田中主事】

- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務める

ことを報告

【吉崎会長】

・会議録の確認者：江平委員

次第3 議題「(1) 地域アンケートについて」に入る。10月15日から実施している地域アンケートについて、事務局より進捗状況の説明を求める。

【田中主事】

・資料1・2に基づき説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

【塩坪副会長】

過去に諏訪区でもアンケートを実施しているが、その際の回答率を教えてください。

【田中主事】

諏訪区での回答率については、現在、詳細な回答は持ち合わせていないが、津有区で実施したウェブアンケートよりは多かったと記憶している。このたびのウェブアンケートの回答率は、アクセス数では0.8パーセント程度、回答数では0.5%程度である。また、諏訪区では紙面のアンケートを町内会長等から配布している。

【吉崎会長】

他に質問等あるか。

(発言なし)

次にアンケートの検証に入る。今回、初めての試みとしてウェブアンケートを活用したが、回答が少数に留まった。なぜこのような結果となったのか、方法や手段等、気付いた点や改善点等について意見を求める。

【宮越委員】

町内会長をしているため、各世帯への文書の配布も担当している。しかし、文書を配布しても見ないで、そのままにしている世帯が多いように感じている。配布した際に若者と会っても告知を忘れてしまい、自分の子供たちも見えていなかった。また、ぱっと見の印象が薄いような感じがするため、今後、実施する際には、色の構成等について検討の余地があると思う。

【吉崎会長】

委員の中でアンケートに回答した委員はどの程度いるのか。

(4人挙手)

【太田委員】

自分もアンケートに回答した。自分でやってみなければ分からないと思い、やってみましたが、細かくて最後まで回答するのに結構な時間がかかった。そのため、設問は簡単でもよかったと思う。

【服部委員】

自分はアンケートに回答する前に、知人の家を3軒ほど訪ねたが、「広報つあり」が玄関に置いてあった。アンケートへの参加を促したが、どうやってQRコードを読み取るのかとの疑問を持つ人もいた。数人は、やってみると言っていたが、実際にアンケートに参加したのかは分からない。自分もアンケートに参加し、QRコードを読み取ってみたが、なかなか難しいのではないかと思いながら参加した。

【保坂委員】

自分もアンケートに参加した。実際に参加してみた印象としては、関係のない広告が多く表示されるため、これは何かと疑問に思った。広告を承知しているのであれば、あらかじめアンケートに関係のない広告等が表示されることがあるため、無視して進んでくださいとの記載があってもよかった。今後も実施するのであれば、やはり紙面のアンケートに返信用の封筒を付ける方法が基本だと思う。簡単な質問であればウェブアンケートでも良いと思う。しかし、少し考えなければ回答できないような質問については、紙面のアンケートに返信用の封筒を付けて実施したほうが良い。紙面の方が回答する人も増えると思う。

【吉崎会長】

逆にアンケートに参加しなかった委員は、なぜ参加しなかったのか聞かせてほしい。

【江平委員】

自分は知識がなく参加できなかった。家族にも参加を促してみたが、「広報つあり」を見ただけで参加には至らなかった。

【清水委員】

正直、見ないうちに終わってしまった。

【吉崎会長】

それは、「広報つあり」自体を毎回見ていないということか。

【清水委員】

広報誌は農業関係のものもあるため、部数が非常に多く、なかなかすべてに目を通すことは難しい。

【古川委員】

自分も見逃してしまった。あっという間に終わってしまったという感じである。

【丸山委員】

今回の「広報つあり」は見していない。ただし、「広報つあり」については、時々は目を通してはいるが、今回の号は地域協議会の議題の中だけとの考えであり、あまり関係ないと思っていたため、見していない。

【吉崎会長】

もし見ていたらウェブアンケートに参加していたか。

【丸山委員】

参加しなかったと思う。

【宮越委員】

自分は一応 QR コードを読み取り、途中までアンケートに参加した。こんなに細かく項目があったのかと再確認した。もう少し、あっさりした内容でも良かったように思った。途中の津有地区地域づくり協議会や地域協議会に関する質問は、対象にはならないと思ったため、そこで終了した。

【山菅委員】

携帯電話は電話とメール程度しか使っていないため、やり方が分からず、息子に教えてほしいとお願いしたが、やらないまま終わってしまった。

【塩坪副会長】

我が家で「広報つあり」を見ているのは自分だけだと思うが、どこの家庭も同じような感じだと思う。世帯主だけが見て、子どもたちは見ないことは当たり前になっている。年に2回の発行だが、若い人は見ないことが当たり前になっているため、回答が少ないと感じている。

【吉崎会長】

今話していただいた意見が全体的な地域の意見とも言えると思う。回答が少なかった原因の1つとしては、やはり「広報つあり」を見ないことだと思う。「広報つあり」を見てもアンケート実施の印象が薄いため、目に入らなかったように思う。また、やり方がよく分からなかったという理由もある。先ほど、紙面でのアンケートに返信用

の封筒を付けるとの意見もあったが、今回は新たな取組としてウェブアンケートを実施した。当初は町内会長に負担がかかると考え、良い方法だと思って実施してみたが、結果的に回答は少なかった。紙でのアンケート配布のほうが良いのか、もしくは、しっかりと周知を図ったうえでウェブアンケートを継続するか、意見を求める。

【宮越委員】

当初、アンケートの実施方法を検討した際に、自分は町内会長の業務を増やさないほうが良いと発言し、紙での配布をやめた経緯があった。自分としても本来であれば、紙でのアンケート配布の方が良いとは思っている。また、今回のウェブ形式でのアンケートは、回答数が想像以上に少なかったが、次回実施する際は、もう少し方法等を検討したほうが良いと思う。1回失敗したからといって、次も駄目だということではない。今後は若者を中心にインターネット関係に強くなる時代だと思うため、ウェブアンケートも方法の1つだと思う。

【清水委員】

自分としては、突然アンケートが始まったとの印象があった。事前の周知がチラシ等に入っていれば違っていたかもしれない。

【保坂委員】

今回のようなウェブアンケートを今後も実施するのであれば、やはり手順が重要だ。携帯でQRコードを読み取って回答していくが、アンケートを実施する際には、回答方法を丁寧にサポートしたほうが良い。また、町内会長を通さずに紙面でアンケートを実施する場合、配布手段等の問題が出てくる。例えば、定期的に地域へ配布しているものを利用し、全戸に全て切手付きの封筒を付けて配布したほうが良いと思う。予算はかかると思うが、そこまでしなければ良いアンケートはできないような気がする。現在、市や県で実施しているアンケートは、すべて紙面であり、返信用の封筒が付いている。

【服部委員】

自分の娘が中高生の時に市からアンケートの依頼があったが、娘は開けることもなく、そのままにしていた。アンケートに対して、若い世代の感じ方が薄いのだと思った。そのため、必ず開封し、返信できるような方法を見つける必要がある。

【吉崎会長】

紙面でのアンケート実施のほうが良かったと感じているか。

【服部委員】

紙面なら全員が回答してくれるということはないと思うが、ウェブアンケートは、余りにも回答が少なかった。しかし、アンケートの手段としてウェブ形式も大事だと思っている。

【山菅委員】

携帯電話を上手に使える人だったら良いが、不慣れな人がQRコードを読んでアンケートに参加することは難しい。誰もができるものではない。

【吉崎会長】

途中経過として事務局から回答数が少ないと聞いていたが、近所の人や知人等に参加を促す声掛け等はしないようにした。実際の現実的な結果を得たいと考えたが、残念な結果になってしまった。紙でのアンケートでは町内会長の負担も大きくなってしまったため、ウェブアンケートをもう少し改善して継続したほうが良いのか。また、紙面のアンケートなら回答率が上がるとの考えもある。今回の結果は、町内会長との意見交換会の中でも話すが、地域協議会としては、今後どのようにアンケートを実施したほうがよいかについて、改善点を提示したいと思っている。

【江平委員】

今回のアンケート結果が極端に少ないからとやめてしまうのはもったいない。今の世帯主はインターネットを使ってこなかった世代だと思う。今後、若い人達の世帯が増えてきた場合、当たり前に見えるようになることも考えて良い。様々な問題も出てくると思うが、将来的には使いこなせる人たちも増えてくる。そのため、今後もウェブを利用していくことも手段の1つだと思っている。

【渡部委員】

資料を見て回答数が本当に少ないと感じた。1つの原因として「広報つあり」が配布された際、各家庭でどこまで見ているかが分からないことだと思う。自分の家には新聞と一緒に届くため、今回は多少注意して見ていた。今回「広報つあり」にウェブアンケートを掲載する旨を前もって周知しておけば、もう少し違った結果が出ていたかもしれない。

【吉崎会長】

自分が回答した際は、実際に10分程度で終わったため、普段から携帯を使い慣れている人には難しくはないように感じた。ウェブアンケートでの実施は、町内会長に負

担をかけないとの考えから始まったことである。町内会長から全戸配布の文書を少なくして欲しいとの要望があるなかで、流れとしては良いと思った。できることであれば、ウェブ形式でのアンケートを改善して継続したいと考えている。また、しばらくの間は書面と併用して実施することも1つの手段だと思う。今後は携帯を簡単に使いこなせる世代になってくると思うため、ウェブ形式のほうが早くて良いと思える時代がくるかもしれない。先日の地域協議会の会長会議では、ある地区の会長が地域の情報周知の徹底を図る中で、紙だけでは難しいとの話があった。例えば SNS 等で地域のグループがあれば見やすいと若い世代から意見があったと話しており、地域の人が SNS を活用することも1つの手段だと思う。今回は「広報つあり」を配布したのみで実施したが、SNS もうまく活用して実施すればもう少し成果が出たのかもしれない。そのため、ウェブアンケートは諦めず、今後はうまく活用できるよう協議しながら進めていくこととして良いか。

【保坂委員】

良いと思うが、来月の町内会長との意見交換会の際に、今回のウェブアンケートの結果を報告することになる。方向としては、今回はウェブアンケート形式で実施したが、このような結果になり、むしろ非常に勉強になったと報告することになると思う。結果を受けて、予備調査のような位置付けとしているとして、今後の展開の中にウェブ形式も候補に入れながら、町内会長にも協力を願うことがあるかもしれないとの雰囲気を出して盛り上げていく方向がよいと思う。

【吉崎会長】

そのようなかたちで進めていきたいと思う。

以上で、次第3 議題「(1) 地域アンケートについて」を終了する。次に次第3 議題「(2) 町内会長との意見交換会について」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料3に基づき説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

町内会長との意見交換会の内容については、意見書の内容と地域アンケート結果についてである。他に追加すべき事項等あるか。

(発言なし)

では、今年度の「町内会長との意見交換会」の内容については、先ほど説明のあった内容で開催することとする。

以上で、次第3 議題「(2) 町内会長との意見交換会について」を終了する。

次に、次第3 議題「(3) 高齢者の交通手段について」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料4、資料5、参考資料に基づき説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

協議に入る。前回の地域協議会では、市に高齢者向けの交通安全講習会開催を提案する意見書を提出することで決定した。本日は意見書の内容を協議し、意見書に協議結果を反映した後、町内会長との意見交換会を経たうえで市に意見書を提出することになる。資料5の⑤から⑧について協議する

⑤の協議に入る。協議のポイントとしては、開催範囲と開催頻度をどうするかについて協議する。まずは、開催範囲について意見を求める。資料には参考として、小学校区単位、中学校区単位などとある。大きく分けてはこの2つになると考えているが、小学校区単位より細かくする場合、町内会単位になってしまうため大変になる。1つの方法として津有区全体での実施とするか、もしくは小学校区単位とするかになる。

【宮越委員】

津有区の高齢者はどのくらいの人数がいるのか。

【田中主事】

2015年の国勢調査の結果だと、1,333人となっている。

【保坂委員】

それは70歳以上が対象か。

【田中主事】

65歳以上である。

【太田委員】

高齢者が対象であるため、小学校区単位が良いと思う。開催場所が遠くになると参

加者も減ってしまうことも考えられる。

【吉崎会長】

では、開催範囲は小学校区単位としてよいか。

(よしの声)

次に、開催頻度について協議する。全員が参加できるとは限らないが、それなりの人数がいるため、開催頻度を少なくした場合は、1回あたりの参加人数が増えることになる。しかし、開催頻度を増やすと開催する側に負担がかかってしまうため、そのあたりの折り合いをつけるかたちになる。例えば、津有区には小学校が2つあるため、各3回で開催する場合、2ヶ月に1回程度の開催になる。

【太田委員】

開催頻度を多くしても人数が集まらないように思う。高齢者サロンを開催しても、集まる人は限られている。その現状を踏まえると、人が集まらなければ意味がないため、多くても2ヶ月に1回程度の開催が良い。開催しても誰も来なければ意味がない。

【塩坪副会長】

何をやるのかが問題だと思う。毎回同じことを実施していても、結局は誰も来なくなってしまう。現在、春と秋に交通安全週間を行っているが、1回は春に開催し、次は秋頃に冬の交通安全をテーマとして、どのような危険があるのかといった内容で、年に2回程度の開催としてはどうか。その内容でどの程度の高齢者が集まってくれるのかが問題となってくると思う。

【服部委員】

通常、運転免許証の更新が3年であり、更新の際に講習を受ける。だが、更新後の3年間は講習等を受ける機会がない。それを考えると、年間で4回の開催は多いと思う。小学校なら小学校に集まってもらうことになるが、高齢者は会場に行くだけでも大変である。

【宮越委員】

自分も各会場で年2回程度の開催が妥当だと思っている。また、開催頻度については、実際に開催してから参加状況を見て判断することになる。何もしないで心配するよりは、開催した後に次の反省材料とするほうがよい。

【吉崎会長】

他に意見等あるか。

(発言なし)

各小学校単位で年間2回ずつの開催として良いか。

(よしの声)

では、各会場で年2回の開催とする。

次に、⑥について意見を求める。

【田中主事】

事務局から補足する。公民館事業では、津有区や諏訪区、高士区の子どもを対象にそれぞれの地域内を見て回ることや地域マップを作成する等の事業を行っている。実施する内容は自治区毎で異なるが、公民館事業の中に交通安全の取組を取り入れることを交通安全の担当課に働きかけ、そこから公民館に働きかけてもらう流れになる。そのため、公民館事業のみに特定するか、事業を特定せずに広く働きかけるかを協議してほしい。

【吉崎会長】

公民館事業として実施してもらおうかということである。実施する側としては、公民館事業として開催した方が簡単だと思える部分もあると思うが、逆に地区の取組として考えた場合、活動としてはどうなのかをどのように捉えるのかが論点となってくると思う。改めて意見を求める。

【保坂委員】

公民館事業として開催するのであれば、色々なノウハウを持った人がいると思う。誰か中心となって取りまとめてくれるような世話役的な立場の人に入ってもらうことも良いと思う。そのため、公民館事業として開催することも1つの手段だと考える。

【丸山委員】

公民館事業で開催することに関しては良いと思うが、人が集まるのか、興味を持てるのかが1番大切である。公民館事業や他の事業でもそうだが、まずは人が集まり、聞いてもらえるかが1番大事だと思う。

【吉崎会長】

それは実際に開催する際に、詳細を詰めていく必要があると思っている。だが、今回は意見書の中に入れる内容として考えてほしい。詳細については意見書の中には入れられないと思っている。実際の運用を考えた場合、そのような問題は出てくるとしている。

【丸山委員】

75歳以上になると運転免許証の更新の際に、自動車学校で講習を受講しなければならない。そういった講習と併用して、このような講習会も進めていくのか。

【吉崎会長】

自主的審議を進めていくなかで、運転免許証の高齢者講習もあるが、地区としても何かしらの取組を進めていく必要があると考え、今回テーマとした経過がある。

【田中主事】

75歳以上になると運転免許証の更新に認知症検査等が追加される。しかし、免許の更新をした後は、次の運転免許証の更新まで検査する機会がない。3年といっても高齢になれば体調は日増しに変化しやすくなるため、定期的に自身の身体能力や認知機能等を客観的に認識できる機会を作ることを目的としている。

【丸山委員】

講習会を実施する目的としては、事故を無くすために開催することだと思う。講習会で話を聞いただけで、どれだけの効果があるのかは疑問である。自分も保育園バスの運転手をしているため、年に1回自動車学校で講習を受けている。実際に一般道を走る講習を受けるのだが、18歳で普通自動車免許を取得して以来、自分の誤った運転操作を指摘されることもある。年齢を増すごとに誤った考えで運転している部分もある。講習会は、実技があって成り立つと思う。

【吉崎会長】

今ほどの丸山委員の意見は意見書をまとめていく中で当然話題としては出たと思うが、やはり意識づけが大切との考えから講習会を開催する機会を設け、事故に対する意識を持ってもらうということからテーマとして決定したと思う。

【清水委員】

人が集まらないということで考えるのであれば、敬老会等の行事に合わせて開催すれば良いと思っている。そういった場で開催しなければ集客は難しいと思っている。しかし、全ての地区で敬老会を開催していないと思う。他の行事と同時に開催できることが一番スムーズだと思うため、例えば、学校の文化祭の中に組み込むことも1つだと思う。

【吉崎会長】

意見としては、公民館事業としての開催、他の敬老会等の行事に組み込むとの意見

があった。学校の文化祭等が終わった後に開催できれば集客を期待できるが、実際には難しいと思う。人を集める手段としては、それも1つの方法かもしれない。

【保坂委員】

先ほど、どれくらい興味を持って参加できるかとの意見があった。例えば、年2回開催した場合、2回とも参加した高齢者には簡単な修了証のようなものを出しても良いと思う。修了証を出すことで意識付けを図るという意味合いである。参加することに対するメリットがあっても良い気がする。

【吉崎会長】

それは今後の運用の中で検討していきたいと思う。高齢者の何かしら励みになれば良いと思っている。では、公民館事業の中で開催として良いと思う委員は挙手願う。

(全員挙手)

賛成多数により公民館事業の中での開催する方向で進めていく。

次に、⑦について意見を求める。

【山菅委員】

高齢者本人は、運転をやめたくないというのが本音だと思う。家族の勧めで返納した人は多いが、本人が自覚をしないと駄目なので、講座等は必要だと思う。

【吉崎会長】

具体的にどのような講座や活動等をやってみたい等の意見はあるか。運転免許証の自主返納を勧める講座を開催しても人は集まらない。例えば、事故の悲惨さを伝える内容の講座を開催しても良い。

【江平委員】

家族や親戚を対象とした相談窓口の設置や電話での相談受付が効果のある取組だと思う。家族等に説得されて返納することが多い。自分自身は、運転できると思っている。家族は心配している場合もある。また、家族が心配していても本人が拒んで拒んでもあるため、家族からの相談を受け付ける場があっても良い。

【古川委員】

75歳から80歳ぐらいの高齢者は自主返納の話が出ても、自分の運転に自信があるため、返納しない人が多い。自分の知人も事故を起こし、やっと免許を返納したと言っていた。運転免許証の自主返納について家族で話すことができれば良いが、様々な事例等を考えると、家族だけでは間に合わない場合もある。そのため、講座等を何か

しら開催して自主返納を促すかたちがよい。

【吉崎会長】

具体的にどのような講座だったら自分は返納を検討する等のアイデアはあるか。

【山菅委員】

自損事故だけなら良いが、相手がある事故を起こしてしまい、家族から面倒を見きれないと言われてしまい諦めることが多い。高齢者は家族からそのように言われ、事故を起こしてしまっても自分ではどうすることもできないため、子どもの言うとおりに運転をやめたと話していた。

【吉崎会長】

家族を対象として、説得の仕方のような講座を開催することも1つの方法かもしれない。

【渡部委員】

運転免許証を返納させるための講座をしても、自分から返納する人は少ない。そのため、色々な事例を動画で見せることも良い。日常的にニュース等で流れているため、既に目にしていると思うが、改めて講座として見せることで、多少は返納する気持ちにもなるかもしれない。

【吉崎会長】

やはり、1回の講座だけでは返納する気持ちになることは難しい。また、運転免許証について考えてもらう機会を作ることも大切だ。悲惨な事故の結果ばかりを見せるのではなく、少しずつ運転免許証について考えてもらうといった機会をつくるのが良いのかもしれない。その中で、困っている家族向けの講座があっても良い。

【田中主事】

事務局より補足である。⑦の趣旨としては、家族向けの相談窓口と家族が返納を勧める方法を学ぶ講座であり、家族を対象とした支援を提案している。だが、委員の意見を基に改めて修正したいと思う。

【吉崎会長】

⑧の協議に入る。運転免許証を返納した場合の受け皿について、意見書の中に入れるのか検討していく。受講者の需要把握については、交通安全講習会を実施すれば把握ができている。高齢者の安全な移動手段の確保については、結論が出ていない。意見を求める。

【江平委員】

11月15日号の広報上越に掲載していたが、中学生と高校生を対象として、直江津駅と高田駅から学校の最寄りの停留所までのバスが一律100円で乗車可能と記載されており、とても良い取組だと感じた。例えば、学生が中学校の前で運転手に声をかけると、100円で降車可能とのことである。高齢者に対しても同様の支援があれば良いと思った。

【田中主事】

事務局より補足である。⑧については、交通安全講習会の開催だけで終わるのではなく、今後も高齢者の移動手段について、検討を続けてほしいといった意向を訴えるか訴えないかの意図で記載している。

【吉崎会長】

⑧の1文を入れた方が良いと思う委員は挙手願う。

(全員挙手)

では、⑧の文言を入れることとする。これで全ての項目の協議が終了した。結果を基に、意見書をまとめ、12月の町内会長との意見交換を行ったうえで、市に意見書を提出する。他に何か意見等あるか。

(発言なし)

以上で、次第3議題「(3) 高齢者の交通手段について」を終了する。

次に、次第4「その他」の「次回の開催日について」について事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・次回の協議会について説明

【吉崎会長】

確認である。次回の町内会長との意見交換の中で、例えば意見書についての協議がまとまらなかった場合、1月の開催でも間に合うのか。

【田中主事】

1月の開催で問題はない。

【吉崎会長】

— 日程説明 —

- ・次回の協議会：令和2年1月16日（木）午後6時30分から
- ・内容：令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について

【太田委員】

来年度から津有区地域協議会の委員定数が削減されると聞いたが、実際にはどうなのか。

【吉崎会長】

津有区は定数が12人となる。

【田中主事】

委員定数については地区の人口を基に算出しており、津有区は12人となる。しかし、今年度までは、激変緩和措置として委員定数を14人としている。次回の委員改選の際は、激変緩和措置が終わるため、委員定数が12人となる。

【吉崎会長】

地区の人口が5,000人を超えると委員の人数が増えるのだが、現在、津有区の人口は5,000人を下回っている。

他に意見・質問等あるか。

(発言なし)

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。